中学生の受験競争観と学習動機，受験不安，学習態度の関係

Relationship of Junior High School Students' Views on High School Entrance Exams and Motivation to Study, Their Anxiety, and Learning Attitude.

木下　莉彩子
跡見学園女子大学大学院
人文科学研究科臨床心理学専攻
Risako Kinoshita
Graduate School of Humanities,
Division of Clinical Psychology

要　約

関東圏内の中学３年生172名を対象に受験競争観（消耗型競争観と成長型競争観）と自律的学習動機（学習動機が内的か外的か），試験不安，規定方略傾向（試験勉強のためだけに学習をしているかどうか）の関連を検討することを目的として，質問紙調査（受験競争観尺度，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度）を実施した。

その結果，「消耗型競争観」の学習者は外的な学習動機や受験不安が高い一方で，「成長型競争観」を持つ学習者は内的な学習動機が高いことが示された。また，「消耗型競争観」を持つ学習者において，自身の将来の成功や希望する大学のために学習を行う「同一化的調整」の傾向と周りに怒られるから学習を行う「外的な学習動機」が失敗不安と関連することが明かとなった。高校入試における競争が学習者に与える影響は，受験競争観によって異なることが示された。

Ⅰ　問題と目的

受験における競争は受験生の学習に対して様々な弊害をもたらしていると認識されてきた（中央教育審議会，1996）。しかし，近年，テストの機能に対する期待と関心が高まってきている（鈴木，2012）。

しかし，受験における競争観が学習者にどのような影響を及ぼしているのか，あまり明らかにされていない。また，競争観は個人差があると考えられるため，受験における競争が，学習者の学習の在り方などと，どのように関わっているのかを明らかにしていくことは，重要な課題といえる。

鈴木（2014）は，大学入試場面において，高校生がどのような競争観を有しているのか。また，競争観によって学習動機や受験不安，学習態度がどのように異なるのかを検討した。その結果，受験競争観には，心身の消耗や学習意欲の低下，友人関係の悪化といった側面を強調する「消耗型競争観」と自己調整能力や学習意欲の向上，友人関係の親密化といった側面を強調する「成長型競争観」の２つの側面があることを示した。

また，消耗型競争観を強く持つ学習者ほど外的な学習動機や受験不安が高い一方で，成長型競争観を強く持つ学習者ほど学習の価値を内在化し，受験を乗り越えるためだけの学習をとらない傾向にあることが示された。これにより，大学入試における競争が学習者に与える影響は，受験競争観によって異なることが示唆された。

鈴木（2014）は高校生を対象としていたが，中学生を対象に行われていない。受験というものを初めて意識する中学生を対象に，競争と学習の在り方などがどのように関連するか明らかにすることは意義があると考えた。そのため，本研究では，中学生を対象に受験競争観（消耗型競争観と成長型競争観）と自律的学習動機（学習動機が内的か外的か），試験不安，規定方略傾向（試験勉強のためだけに学習をしているかどうか）の関連を検討する。

筆者の仮説は以下のとおりである。

消耗型競争観が強い場合は，学習者の目的が競争に向かってしまうことから，外的な学習動機をもって学習するようになり，成長型競争観は学習自体が目的化されることから，内的な学習動機をもって学習をするようになると考える。

受験不安は，消耗型競争観の考えを持つ学習者ほど，テストでの失敗に敏感に反応したり，受験のことを考えると不安な気持ちか高まると考えられる。

消耗型競争観を持つ学習者は規定方略傾向が強くなり，成長型競争観を持つ学習者は規定方略のような学習態度は取らない傾向にあると考えられる。

Ⅱ　方法

1．調査対象者

関東の公立中学３年生と私立中学３年生の約172名を対象とした。

2．調査期間

2018年７月１日から2018年７月31日までに質問紙調査を実施した。

3．調査手続き

管理職に研究の概要について説明し，同意を得て，担任の指導の下，１学期の定期考査後の短縮授業時間が始まった時点で，封筒に入れた質問紙を一斉配布，一斉回収した。なお，調査は学校の成績に一切関係がないこと，個人のプライバシーは保護されることを表紙に明記した。担任が回収後，クラスごとに一つの封筒にまとめ，その後，調査者が回収した。

4．質問紙の構成

1）フェイスシート

「試験勉強に関する調査」と題して質問紙調査の趣旨を説明し，「性別・年齢・学年」について記入を求めた。

2）受験競争観尺度

受験競争観について，鈴木（2004）によって作成された「受験競争観尺度」を使用した。大学受験における競争の意味や機能をどのように捉えているのかを測定する。信頼性は内的整合性が示された。２下位尺度，計21項目から成る。質問項目はTable.1に示した。鈴木（2012）の受験競争観尺度は，高校生を対象にしているが，質問紙の内容から，中学生にも使用可能と判断した。

3）自律的学習動機尺度

学習動機が内的動機づけか外的動機づけかについて測定するため，西村ほか（2011）の「自律的学習動機尺度」を使用

した。自律的学習動機尺度とは，自己決定理論（活動に対する価値の内在化の程度に着目し，動機づけ概念を整理している理論）に基づく尺度であり，相対的な自律性の程度を測定する。信頼性は内的整合性が示された。確認的因子分析によって，因子的妥当性が確認された。４下位尺度，計20項目から成る。質問項目はTable. 1に示した。

４）試験不安尺度

試験不安について測定するために，東（2004）の「試験不安尺度」を使用した。信頼性係数は内的整合性が示されていた。「自身欠如」の項目のα係数は，やや低かったが調査目的に沿った質問項目であったので，そのまま使用した。東（2004）の試験不安尺度は，大学生を対象に，尺度を作成しているが，質問紙の内容から，中学生にも使用可能と判断した。３下位尺度，14項目から成る。質問項目はTable. 1に示した。

５）規定方略傾向尺度

規定方略とは，試験を乗り越えることをだけを目的に，試験の内容や形式に合わせて学習方法を決定しようとする方略のことである（鈴木，2012）。規定方略傾向（試験のためだけに学習するのかどうか）について測定するために，鈴木（2012）の「規定方略傾向尺度」の４項目を使用した。信頼性係数は内的整合性が示されていた。１下位尺度，４項目から成る。質問項目はTable. 1に示す。

Table.1　各下位尺度の質問項目

尺度	下位尺度	質問項目
受験競争観尺度 （5件法）	成長型競争観(ω=.86)12項目	「競争をすることで，相手とお互いを高めあうことができる」 「競争を通して，状況に適応する力をつけることができる」 「競争があることで，学習意欲が高まる」 「競争を通して，競争相手と友情を築いたり，深めたりすることができる」 「競争を通して，忍耐力をつけることができる」 「競争があることで，友人と一緒に努力を重ねることができる」 「競争をすることで，自分の学力を高めることができる」 「競争を通して，社会で生き抜く力をつけることができる」 「競争があることで，友人と協力しながら学習を進めることができる」 「競争をすることで，自分の学力を客観的に知ることができる」 「競争があることで，学習目標が明確になる」 「競争を通して，自律する力を身につけることができる」
	消耗型競争観(ω=.82) 9項目	「競争があることで，学習のあるべき姿から離れてしまう」 「競争があることで，不安を抱き落ち着きがなくなる」 「競争をすることで，神経が疲れる」 「競争があることで，焦りが生じイライラする」 「競争をすることで，友人と衝突してしまう」 「競争があることで，周囲に気配りができなくなる」 「競争があることで，学習することではなく，競争すること自体が目的になる」 「競争を通して，人間関係が悪くなる」 「競争があることで，学習内容に対する興味がそがれてしまう」
自律的学習動機尺度 （4件法）	内的調整(α=.89) 5項目	「問題を解くことがおもしろいから」 「むずかしいことに挑戦することが楽しいから」 「勉強すること自体がおもしろいから」 「新しい解き方や，やり方を見つけることがおもしろいから」 「自分が勉強したいと思うから」
	同一化的調整(α=.86) 5項目	「将来の成功につながるから」 「自分の夢を実現したいから」 「自分の希望する高校や大学に進みたいから」 「自分のためになるから」 「勉強することは大切なことだから」
	取り入れ的調整(α=.80) 5項目	「勉強で友達に負けたくないから」 「友達より良い成績をとりたいから」 「まわりの人にかしこいと思われたいから」 「友達にバカにされたくないから」 「勉強ができないとみじめな気持ちになるから」
	外的調整(α=.82) 5項目	「やらないとまわりの人がうるさいから」 「まわりの人から，やりなさいといわれるから」 「成績が下がると，怒られるから」 「勉強するということは，規則のようなものだから」 「みんながあたりまえのように勉強しているから」
試験不安尺度 （4件法）	失敗不安(α=.69) 5項目	「テストで失敗するとその事が頭から離れない」 「受験のことを考えると緊張したり混乱したりする」 「自信の無いテストの返却にはいやな気分になる」 「何かよくない事が起こるのではと心配になる」 「勉強中にいらいらしてくる」
	自信欠如(α=.32) 5項目	「自分の成績に満足している」（逆転項目） 「力不足を感じる」 「受験の事を考えると自信がなくなってくる」 「普段は受験のことをあまり考えない」 「受験について悩みがある」
	評価過敏(α=.63) 4項目	「自分の成績を周囲の人と比較する」 「受験教科の成績はとても気になる」 「周囲の人としばしば受験について話す」 「自分の成績を友人から馬鹿にされると嫌な気分だ」
規定方略傾向尺度 （5件法）	規定方略傾向(α=.76) 4項目	「とりあえず目の前のテストをしのぐための勉強方法を使う」 「テストに出る可能性が低いようなところは，勉強しない」 「テストで点を取るためだけの勉強方法は使わない」（逆転項目） 「目の前のテストではなく，これから勉強していく上で，ずっと役に立つような勉強方法を使う」（逆転項目）

5．倫理的配慮

本研究は，跡見学戦女子大学研究倫理調査委員会において，承認を受け実施した（承認番号18-009）。

6．分析

フェイスシート，受験競争観尺度，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度の各下位尺度得点に関して，記述統計を行った。

受験競争観尺度，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度の各下位尺度得点に関してピアソンの相関係数を算出した。

また，受験競争観尺度の下位尺度である成長型競争観と消耗型競争観を平均値で高群・低群と分け，成長型競争観低・消耗型競争観低群，成長型競争観低・消耗型競争観高群，成長型競争観高・消耗型競争観低群，成長型競争観高・消耗型競争観高群の４類型とした。そこから，受験競争観の４類型を独立変数，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度の下位尺度得点を従属変数とした一元配置の分散分析を行った。その後，受験競争観尺度の４類型において，試験不安に対して，自律的学習動機と規定方略尺度の各下位尺度がどのように影響しているかを検討するため，自律的学習動機尺度，規定方略傾向尺度の各下位尺度得点を独立変数，試験不安尺度の各下位尺度得点を各々従属変数として，重回帰分析を行った。

Ⅲ　結果

1．分析対象内訳

２校の中学校から回収できた200名分中，質問紙の記入ミスのなかった計172名分（公立中学校116名（女子58名，男子58名），私立中学校56名（女子56名））を調査の分析対象として採用した。有効回答率は86％であった。

2．記述統計

分析対象者全体（172名）における，各下位尺度得点の平均値，標準偏差をTable.2に示した。

Table.2　記述統計量（各得点の平均点を使用，n＝172）

		平均	標準偏差
受験競争観尺度	成長型競争観	3.64	.70
	消耗型競争観	2.95	.70
自律的学習動機尺度	内的調整	2.27	.68
	同一化的調整	3.30	.57
	取り入れ的調整	2.39	.80
	外的調整	2.45	.71
試験不安尺度	失敗不安	2.89	.67
	自信欠如	2.63	.41
	評価過敏	2.83	.70
規定方略傾向尺度	規定方略	3.13	.72

3．相関係数

受験競争観尺度，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略尺度の下位尺度得点の相関係数はTable.3に示した。

Table. 3　各下位尺度間の相関係数（n＝172）

	成長型競争観	消耗型競争観	内的調整	同一化的調整	取り入れ的調整	外的調整	失敗不安	自信欠如	評価過敏	規定方略傾向
成長型競争観										
消耗型競争観	−.10									
内的調整	.40**	−.14								
同一化的調整	.39**	−.08	.32**							
取り入れ的調整	.44**	.18*	.34**	.36**						
外的調整	−.01	.31**	−.07	−.01	.19*					
失敗不安	.15	.35**	.05	.20**	.31**	.36**				
自信欠如	.22**	.25**	.12	.03	.19*	.16*	.40**			
評価過敏	.39**	.22**	.27**	.40**	.59**	.13	.53**	.35**		
規定方略	−.15	.18*	−.45**	−.26**	−.14	.16*	−.06	.03	−.15*	

**p<.01, *p<.05,

4．分散分析

受験競争観尺度の各下位尺度得点の平均値から高群，低群に分類した。受験競争観尺度の4類型（成長型競争観低・消耗型競争観低群(ab)/成長型競争観低・消耗型競争観高群(aB)/成長型競争観高・消耗型競争観低群(Ab)/成長型競争観高・消耗型競争観高群(AB)）を独立変数とし，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度の下位尺度を従属変数として，1元配置の分散分析を行った。各尺度得点の分散分析の結果はTable. 4に示した。

Table. 4　受験競争観尺度の4類型と各下位尺度得点に関する分散分析

	成長低消耗低(ab)		成長低消耗高(aB)		成長高消耗低(Ab)		成長高消耗高(AB)		f値	多重比較（5％水準）
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
内的調整	2.10	.71	1.98	.59	2.55	.66	2.36	.63	6.48***	ab<Ab，aB<Ab AB
同一的調整	3.06	.59	3.05	.55	3.60	.32	3.38	.59	10.68***	ab<Ab AB，aB<Ab AB
取り入れ的調整	2.09	.67	1.96	.76	2.50	.70	2.80	.76	12.41***	ab<AB，aB<Ab AB
外的調整	2.21	.69	2.66	.72	2.17	.60	2.70	.68	7.85***	ab<aB AB，Ab<aB AB
失敗不安	2.52	.58	2.97	.71	2.79	.64	3.17	.62	8.07***	ab<Ab AB，aB<AB
自信欠如	2.45	.44	2.65	.39	2.64	.43	2.75	.36	4.11**	ab<AB
評価過敏	2.47	.61	2.62	.78	2.93	.61	3.15	.63	9.60***	ab<Ab AB，aB<Ab AB
規定方略	3.09	.58	3.32	.56	2.97	.88	3.15	.76	1.72	

**p<.01, ***p<.001

その結果，受験競争観の4類型において，有意差がみられたのは，内的調整（F(3, 168)＝6.48, p<.001, ab<Ab,aB<Ab AB），同一的調整（F(3, 168)＝10.68, p<.001, ab<Ab AB, aB<Ab AB），取り入れ的調整（F(3, 168)＝12.41, p<.001, ab<AB, aB<Ab AB），外的調整（F(3, 168)＝7.85, p<.001, ab<aB AB, Ab<aB AB），失敗不安（F(3, 168)＝8.07, p<.001, ab<aB AB, AB<aB），自信欠如（F(3, 168)＝4.11, p<.01, ab<AB），評価過敏（F(3, 168)＝9.60, p<.001, ab<Ab AB, aB<AB）であった。

5．重回帰分析

受験競争観の4類型において，自律的学習動機尺度，規定方略傾向尺度の各下位尺度得点が，試験不安に与える影響を検討するために重回帰分析を行った。結果をTable

5に示した。

Table.5　受験競争観の4類型における試験不安への影響

	成長低・消耗低(ab)			成長低・消耗高(aB)			成長高・消耗低(Ab)			成長高・消耗高(AB)		
	試験不安	自信欠如	評価過敏	失敗不安	自信欠如	評価過敏	試験不安	自信欠如	評価過敏	失敗不安	自信欠如	評価過敏
	β	β	β	β	β	β	β	β	β	β	β	β
内的調整												
同一的調整				.51*								
取り入れ的調整			.49*			.42*			.47**	.29*		.45***
外的調整				.38**						.29*		
規定方略												
R^2			.25	.38**		.36**			.26*	.16*		.19*

$p<.05$, $^{**}p<.01$, $^{***}p<.001$　β：標準回帰係

成長型競争観低・消耗型競争観低(ab)群において，取り入れ的調整から評価過敏（$\beta=0.49, p<.05$）に対する標準偏回帰係数が有意であった。

成長型競争観低・消耗型競争観高(aB)群において，同一的調整（$\beta=.51, p<.05$），外的調整（$\beta=.38, p<.01$）から失敗不安に対する標準偏回帰係数が有意であった。また，取り入れ的調整（$\beta=.42, p<.05$）から評価過敏に対する標準偏回帰係数が有意であった。

成長型競争観高・消耗型競争観低(Ab)群において，取り入れ的調整（$\beta=.47, p<.01$）から評価過敏対する標準偏回帰係数が有意であった。

成長型競争観高・消耗型競争観高(AB)群において，取り入れ的調整（$\beta=.29, p<.05$），外的調整（$\beta=.29, p<.05$）から失敗不安に対する標準偏回帰係数が有意であった。また，取り入れ的調整（$\beta=.45, p<.001$）から評価過敏に対する標準偏回帰係数が有意であった。

Ⅳ　考察

1．相関における考察

受験競争観の下位尺度が，自律的学習動機，試験不安，規定方略傾向の下位尺度との関連を検討するため，下位尺度得点間の相関を行った。

1）消耗型競争観の考察

消耗型競争観において，外的調整，失敗不安，規定方略傾向との間に正の関連がみられた。このことから，受験における競争を否定的に捉える傾向が強いほど，周りに言われるから学習を行う傾向や，試験で失敗することへの不安，試験のためだけに学習を行う傾向が高い結果となった。

2）成長型競争観の考察

成長型競争観において，内的調整，同一化的調整との間に正の関連がみられた。このことから，受験における競争を肯定的に捉える傾向が強いほど，自ら進んで学習に取り組んだり，自身の将来のために学習を進める傾向が強い結果となった。

また，成長型競争観・消耗型競争観ともに，取り入れ的調整，自信欠如，評価過敏と正の相関があることが示された。つまり，受験における競争を肯定・否定どちらに捉えていても，周りに負けたくないから学習に取り組むことや，成績のことを考え

ると自信がなくなる，成績を周囲の人と比較することと関連することが考えられる。

2．受験競争観の4類型における分散分析結果について

受験競争観の4つの類型によって，学習態度や試験に対する不安に差があるのかを検討するため，受験競争観尺度の4類型を独立変数，自律的学習動機尺度，試験不安尺度，規定方略傾向尺度得点を従属変数として一元配置分散分析を行った。

1）内的調整における考察

内的調整において，成長型競争観低・消耗型競争観低(ab)に比べ，成長型競争観が高い(Ab)群の方が内的調整は高かった。また，消耗型競争観が高い(aB)群に比べ，成長型競争観が高い(Ab)群，成長型競争観高・消耗型競争観高(AB)群のほうが内的調整の得点は高かった。これらのことから，受験における競争を肯定的に捉えているグループは，否定的に捉えるグループに比べ，自ら進んで学習に取り組みやすいことが考えられる。

2）同一化的調整における考察

同一化的調整において，成長型競争観・耗型競争観がともに低いグループと消耗型競争観が高いグループに比べ，成長型競争観が高いグループと成長型競争観・消耗型競争観ともに高いグループの方が得点は高かった。これらのことから，受験における競争を意識していない，または否定的に捉えているグループより，肯定的に捉えているグループの方が，自分の将来や進路のために学習に取り組んでいる傾向にあると示唆される。

3）取り入れ的調整における考察

取り入れ的調整において，成長型競争観・消耗型競争観がともに低いグループに比べ，成長型競争観・消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高かった。また，消耗型競争観が高いグループに比べ，成長型競争観が高いグループ，成長型競争観・消耗型競争観が高いグループの方が得点は高かった。これらのことから，受験における競争を意識していないグループより，競争を否定的にも肯定的にも捉えているグループの方が，また競争を否定的に捉えているグループより，肯定的に捉えているグループの方が，勉強で友人に負けたくない，周りにかしこいと思われたいという気持ちから学習に取り組む傾向にあると考えられる。

4）外的調整における考察

外的調整において，成長型競争観・消耗型競争観がともに低いグループ，成長型競争観が高いグループに比べ，消耗型競争観が高いグループと成長型競争観・消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高かった。これらのことから，受験における競争を意識していない，または肯定的に捉えているグループに比べ，否定的に捉えているグループの方が，成績や勉強のことで周りに言われるために学習に取り組んでいる傾向が高いと考えられる。

5）失敗不安における考察

失敗不安において，成長型競争観・消耗型競争観がともに低いグループに比べ，消耗型競争観が高いグループと成長型競争観・消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高かった。また，成長型競争観が高いグループに比べ，成長型競争観・消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高かった。これらのことから，受験に

おける競争観を意識していない，または肯定的に捉えるグループより，否定的に捉えているグループの方が，試験での失敗に対する不安を持ちやすいことが考えられる。

6）自信欠如における考察

自信欠如において，成長型競争観，消耗型競争観がともに低いグループに比べ，成長型競争観，消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高かった。このことから，受験における競争を肯定的にも，否定的にも捉えているグループの方が，競争を意識していないグループより受験についての悩みを抱えていたり，力不足に感じる傾向があると考えられる。

7）評価過敏における考察

評価過敏において，成長型競争観，消耗型競争観がともに低いグループと消耗型競争観が高いグループに比べ，成長型競争観が高いグループと成長型競争観，消耗型競争観がともに高いグループの方が得点は高くなった。このことから，受験における競争を意識していないグループや否定的に捉えるグループより，競争を肯定的に捉えるグループの方が受験について人と話したり，周囲の人と成績を比較する傾向にあると考えられる。

取り入れ的調整において，受験における競争を意識していないグループより，競争を肯定的にも，否定的にも捉えているグループの方が，また競争を否定的に捉えているグループより，肯定的に捉えているグループの方が勉強で周りに負けたくない，周りに賢いと思われたいという傾向が高かった。このことから，評価過敏においても，同様に周りの人と比べる傾向が高くなったことが考えられる。

8）規定方略傾向における考察

規定方略傾向において，4類型で有意な差は見られなかった。

鈴木（2014）では，消耗型競争観が強いとしても，志望校への進学を希望しているからには，学習内容の価値を認め，入試で必要とされる内容を身につけようとする学習者が多いとしている。このことから，本研究においても，希望する高校への進学を希望している場合には，学習内容の価値を認め，入試で必要とされる内容を身に着けようとする学習者が多いと考えられる。

3．重回帰分析における考察

受験競争観の4類型において，「自律的学習動機」，「規定方略傾向」の下位尺度が，「試験不安」に与える影響を検討するため，自律的学習動機尺度得点と規定方略傾向尺度の下位尺度得点を独立変数，試験不安尺度の下位尺度得点を従属変数として，重回帰分析を行った。

1）成長型競争観低・消耗型競争観低群における重回帰分析

成長型競争観低・消耗型競争観低(ab)群において，評価過敏に対して，取り入れ的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における競争を意識していないグループにおいて，「勉強で友達に負けたくない」などの取り入れ的調整が「自分の成績を周囲の人と比較する」などの評価過敏と関連しているといえる。

2）成長型競争観低・消耗型競争観高における重回帰分析

成長型競争観低・消耗型競争観高(aB)群において，失敗不安に対して，同一化的調整と外的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における

競争を否定的に捉えるグループにおいて，「将来の成功につながるから」などの同一化的調整と，「やらないとまわりの人がうるさいから」などの外的調整が「受験のことを考えると緊張したり混乱したりする」などの失敗不安と関連しているといえる。

また，評価過敏に対して，取り入れ的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における競争を否定的に捉えているグループにおいて，「勉強で友達に負けたくない」などの取り入れ的調整が「自分の成績を周囲の人と比較する」などの評価過敏と関連しているといえる。

3）成長型競争観高・消耗型競争観低群における重回帰分析

成長型競争観高・消耗型競争観低(Ab)群において，失敗不安に対して，取り入れ的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における競争を肯定的に捉えているグループにおいて，「勉強で友達に負けたくない」などの取り入れ的調整が「自分の成績を周囲の人と比較する」などの評価過敏と関連しているといえる。

4）成長型競争観高・消耗型競争観高群における重回帰分析

成長型競争観高・消耗型競争観高(AB)群において，失敗不安に対して，取り入れ的調整と外的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における競争を肯定的にも，否定的にも捉えているグループにおいて，「友達より良い成績をとりたいから」などの取り入れ的調整と，「まわりの人からやりなさいといわれるから」などの外的調整が「受験のことを考えると緊張したり混乱したりする」などの失敗不安と関連しているといえる。

また，対周囲不安に対して，取り入れ的調整が影響を及ぼしていることが示された。このことから，受験における競争を肯定的にも，否定的にも捉えているグループにおいて，「勉強で友達に負けたくない」などの取り入れ的調整が「自分の成績を周囲の人と比較する」などの評価過敏と関連しているといえる。

V　総合考察

高校入試場面において，競争観が学習動機，試験不安，規定方略傾向とどのような関連があるのかを検討した。

その結果，成長型競争観を持つグループは，学習の価値を内在化するような内的動機づけを持ち，消耗型競争観を持つグループは，学習の価値を外在化するような外的動機づけを持つことが示された。また，試験に対する不安についても，成長型競争観を持つグループに比べ消耗型を持つグループの方が不安は強い傾向が示された。本研究での仮説通りであり，どのような受験競争観を持つかによって，学習者に対する自律性の程度が異なることを示す結果になると考えられる。

鈴木（2014）は，消耗型競争観を強く持つ高校生ほど外的な学習動機や受験不安が高い一方で，成長型競争観を強く持つ高校生ほど，学習の価値を内在化し，受験を乗り越えるためだけの学習をとらない傾向にあることが示されていることから，中学生を対象とした本研究においても，同様のことがいえる。

また，受験競争観の4類型において，自律的学習動機と規定方略傾向が試験不安に

どのような影響を及ぼすのかを検討したところ，すべての類型において，取り入れ的調整が評価過敏に影響を及ぼすことが示された。取り入れ的調整は「勉強で友だちに負けたくない」や「友達より良い成績をとりたいから」などの質問項目で実施した。評価過敏は「自分の成績を周囲の人と比較する」や「自分の成績を友人から馬鹿にされると嫌な気分だ」などの質問項目を実施した。このように質問項目の内容が似ていることからすべての類型で取り入れ的調整が評価過敏に関連していたと考えられる。

また，消耗型競争観を強く持つグループにおいては，同一化的調整と外的調整が失敗不安に関連することが示された。

外的調整について，西村・櫻井（2013）は外的調整が学業不安と正の相関があることを示したことから，本研究においても同様のことがいえる。消耗型競争観を強く持つと，同一化的調整や外的調整が失敗不安に影響を与えることが明かとなった。

Ⅵ　今後の課題

本研究では，調査対象者が少なかった。そのため，今後は調査対象者を増やして検討していきたい。また，鈴木（2014）は学力の低い高校の生徒ほど，学力検査を受けない方法で進学する傾向になると示している。このことから，学力水準によって，受験競争観に違いがみられることが考えられるため，多様な学力水準の中学を調査対象にし，受験方法や志望校にも考慮した研究を行う必要がある。

さらに，鈴木（2014）は，受験競争観は変化する可能性のあるものとしている。受験競争観の変化のパターンは非常に多様であると考えられる。このことから，一時点の調査ではなく，縦断調査を実施して変化のパターンと個人差について検討することも重要であると考える。本研究では，競争を肯定的に捉える成長型競争観は自律的な学習動機と正の関連を示したことや鈴木（2014）で，受験競争観は変化する可能性のあるものとしていることから，競争観をどのように捉えるかによっても学習動機などが変化することが考えられる。しかし，競争観を変容させるための方策や，変容の効果についてはまだ明らかにされていない。今後は，受験場面における競争を活用するという視点から研究を行うことが望まれる。

引用文献

東美絵（2004）．受験不安と健康について―ソーシャル・サポートとの関連から―臨床教育心理学研究，30，39–51.

中央教育審議会（1996）．http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960701f.htm（2018年12月 5日）.

古屋健・中澤達彦・音山若穂（2009）．中学生の受験ストレス評価ツールの開発群馬大学教育実践研究，26，129–138.

石毛みどり・無藤隆（2005）．中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャルサポートとの関連―受験期の学業場面に着目して教育心理学研究，53，356–367.

Marsh, H.W.（1987）. The big-fish-little-pound effect on academic selfconcept. *Journal of Educational Psychology, 79*, 280–295.

Marsh, H.W., Kong, C.K., & Hau, K.T. (2000). Longitudinal multilevel models of the big-fish-little-pound effect on academic self concept : Counterbalancing contrast and reflected glory effects in Hong Kong schools. *Journal of Personality and Social Psychology, 78*, 337-349.

中田明子（2005）．私立中学生の競争観―学校タイプ・教育指導・家庭の影響の考察-東京大学大学院教育研究科比較教育社会学コース（編）「首都圏の私立中学生の生活・意識・行動に関する調査」研究報告－pp. 117－132－.

西村多久磨・川村茂雄・櫻井茂男（2011）．自律的な学習動機付けとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセス―内的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか？―教育心理学研究，59，77-87.

西村多久磨・櫻井茂男（2013）．中学生における自律的学習動機づけと学業適応との関連心理学研究，84，4，365-375.

Regner, I., Escribe, C., & Dupeyrat, C. (2007). Evidence of social comparison in natural academic settings. *Journal of Educational Psychology*, *99*, 575-583.

鈴木雅之（2012）．高校生の英語の定期テスト前後おける学習方略とテスト観の関係―テスト接近-回避傾向を媒介要因として―日本テスト学会誌，8，19-30.

鈴木雅之（2014）．受験競争観と学習動機，受験不安，学習態度の関連教育心理学研究，62，226-239.

鈴木雅之・西村多久磨・孫媛（2015）．中学生の学習動機づけの変化とテスト観の関係教育心理学研究，63，372-385.